

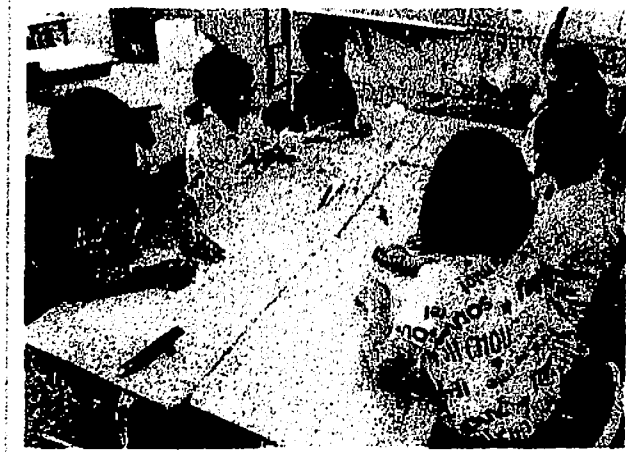
第69次 印旛地区教育研究集会

国語科「話す・聞く」分科会 提案資料

研究主題

主体的に自分の思いや考えを伝え合う児童の育成

～意欲を育む話すこと・聞くことの言語活動～



令和元年8月27日(火)

第5部会 四街道市立吉岡小学校

野田 夏未

四街道市立山梨小学校

熊谷 純子

目次

I	研究主題	P 1
II	主題設定の理由	P 1
III	研究仮説と手立て	P 3～P 5
IV	授業実践	
	・吉岡小学校3年2組の実践	P 6～P 13
V-1	手立てに対しての児童の変容	P 14～P 18
	・山梨小学校4年1組の実践	P 19～P 26
V-2	手立てに対しての児童の変容	P 26～P 34
VI	成果と課題	P 35～P 36

I 研究主題

主体的に自分の思いや考えを伝え合う児童の育成
～意欲を育む話すこと・聞くことの言語活動～

II 主題設定の理由

(1) 今日の教育課題・学習指導要領から

現代、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術改革等により、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化しており予測が困難な時代になっている。こうした変化の一つとして、人工知能（AI）の飛躍的な進化を挙げることができる。

このような時代にあつて、学校教育には、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

国語科学習指導要領の思考力、判断力、表現力の目標は「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」となっている。低学年では、「自分の思いや考えをもつこと」、中学年では「自分の思いや考えをまとめること」、高学年では、「自分の思いや考えを広げること」と、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことなどができるようにすることを系統的に示している。

このような力は、人工知能では補いにくいものと考えられる。人だからできる関わり合い、伝え受けとめ合いをしながら互いの思考を高め生きる力の育成を求めて、本研究主題を設定した。

(2) 学校教育目標から

【吉岡小学校】

学校教育目標

「考える子・心豊かな子・強い子」の育成

めざす学校像

- 自ら考え、学び合う子どもを育てる学校
- 情報共有を心がけ、保護者にとって安心感の持てる学校
- 教職員が協働し、生き生きと働く学校
- 地域と共にある学校

めざす児童像

- よ よく考える子ども
- し 心身ともに健康な子ども
- お 思いやりのある子ども
- か 感性豊かな子ども

めざす教師像

- 明朗快活で心身ともに健康な教師
- 児童一人一人を大切にす教師
- 研修に努め自ら指導力を高める教師
- 連携に富んだ教師集団

【山梨小学校】

学校教育目標

心豊かに 学びを拓く 実践人
～人や自然を大切にし、社会に学びを拓く児童の育成

めざす学校像

- 地域社会と関わり合いながら自ら学び、確かな学力を備えた心身ともに健やかな児童の育成
- たてわりを中心とした集団活動での規範意識や思いやりの心の育成
- 人や自然を大切にし、地域を愛する児童の育成

めざす児童像

- や やる気満々山梨っ子
- ま 真心いっぱい山梨っ子
- な 仲よし仲間山梨っ子
- し 幸せいっぱい山梨っ子

めざす教師像

- 自ら指導技術の向上や専門的知識の習得に励む教師
- 児童や保護者の願いや思いに耳を傾け、誠実に対応する教師
- 互いに良い所を認め合い、協力し合って児童を育成する教師
- 教育公務員としての高い倫理観と使命感を持ち、児童や保護者から信頼される教師

吉岡小では学校の教育活動全体を通して「生きる力」を育むことを目指している。変わっていく社会に対応するために、「知・徳・体」をバランスよく身に付けることが必要だと考える。また、主体的・対話的で深い学びができるように、自ら考え、行動しようとする頑張りを認め合うことで、自信をもち、次の学びにつなげていくことが重要だと考えた。めざす児童像の「よく考える子ども」とは、国語科の学習において、課題に対し、自分の意見や考えをしっかりと持ち、自ら進んで伝え合うことができる姿であると考えている。

山梨小では、学校の教育活動全体を通して人や自然、物との関わりの中で生きる力を育むことを目指している。「知」「徳」「体」のバランスを取りながら地域との連携を図り、社会に対応していく力を身につけさせ、未来を自分で切り開いていける児童の育成を目指している。

国語科の学習においても様々な体験や交流活動を通して思いや考えを培い、伝え合える力を養うことに重点が置かれている。

(3) 研究主題のとらえ方

①「主体的に伝え合う」について

主体的に伝え合うとは、自分の意見や考えを進んでもち、自分の言葉で伝えていく姿である。互いの考えを聞き合い、話し合いをすることで、他と自分の考えの共通点や相違点に気づき、より合意形成をしながら見つけていこうとする姿を求めていく。

②自分の思いや考えを伝え合う児童について

物事を自分の言葉で認識し、考えをめぐらせる力や相手の気持ちを理解し合う言葉の力、理解してよりよいものを形成しようとする学びに向かう人間性は、児童が生きる上で重要な力と考える。特に、「伝え合う力」は、めまぐるしく変化するこれからの時代を豊かに生きていく資質、能力として必須の力である。そのため、自分の心でとらえ、考え、それを人と伝え合える児童の育成を求めていく。

III 研究仮説と手立て

仮説1 身近にある題材をもとに学習の目的を設定すれば、意欲が高まり、思いや考えを主体的に伝えることができるだろう。

手立て1：身近にある題材を活用するための工夫

① 話し合いBOXの設置

話し合いBOXの中から、話し合いの議題を、児童が楽しみにしている『お楽しみ会』を学習のゴールにすることによって、意欲を引き出させる。

② 小中一貫教育における中学校区での協力体制

2校の児童は話し合うことに対する意識は違うが、2校とも中学年としての話し合いが成立しているとは言い難い現状にある。山梨小の4年生の実態は、話し合うことに対して自信がない上に実際に話し合いをしても、積極的に話し合えているとは言えない。吉岡小の3年生の実態は、話し合うことに対しては自信があるが、実際に話し合いをすると、十分に意見を交流させて話し合うことはできていない。そこで、学年は違うが、同じ中学年の目標の下にお互いにアドバイスをし合い、高め合えるのではないかと考えた。今回の実践では、話し合う内容を集め、モデルとなったりゴールに相手となったりする形で協力し合って実践を進めた。(・話し合いBOX等のアイデアのアドバイス・吉岡小の魅力を紹介するビデオレターの作成・ビブリオバトルのモデル)

手立て2：話し合い活動の工夫

① 主体的に伝え合う場の設定を工夫する。

- ・司会者が話し合いを進行できるように、2種類のヒントカードを用意し、自分にあったカードを選ばせることによって、司会者が進行をしやすいようにする。(①台詞が全て書いてあるもの②進行の流れが書いてあるもの)
- ・全員に自分が提案したい遊びの内容と長所をワークシートに書かせ、全員が発表をする機会を作ることによって自信をもって自分の意見を言えるようにする。
- ・全体で意見を集約できるように、グループ→全体の手順で話し合いを行わせ、お楽しみ会に自分の意思が反映するような話し合いの場を設定する。
- ・話し合う時間とメモをとる時間を分けて設定することで、集中して活動できるようにする。
- ・学習前と学習後の話し合いの様子をビデオに撮って見せ、話し合い方の変容に気付かせ、自分たちの成長をふり返り、次の学習に意欲的に取り組めるようにする。
- ・記録者のノートを発言者と対応させながら確かめさせ、議事進行に役立て、話し合いの過程や結論を保存することで、意見の混乱を防ぐようにする。

② 役割の工夫

- ・個々がどんな仕事をするのか役割を明確にすることにより、意識化を図り、活動内容を工夫させる。
- ・どの役割がどんなことをするのか自分ですぐに確認できるように確認シートを持たせる。
- ・役割の名札を付けることで、誰がどの役割をしているのか明確にする。

仮説2 学習形態や方法を工夫すれば効果的に伝え合うことができるだろう。

手立て1 学習の見通しと意欲付け

- ① 児童とともに学習計画を立て、活動目的をはっきり意識させて、見通しをもたせる。
- ② ビブリオバトルのモデルを上学年の児童に示してもらうことによってビブリオバトルに興味をもたせ、概要をわかりやすく知らせて、イメージをふくらませやすくする。
- ③ 「チャンプ本」に選ばれた本は、図書室に紹介コーナーを設けることを知らせ、学習意欲をもたせる。
- ④ 個に応じた指導を工夫する。
 - ・2年生のときに学習した「きつねのおきゃくさま」をビブリオバトルに取り入れることにより、本の概要をつかむことや構成を考えるのが苦手な児童でもとりかかりやすいようにする。

- ⑤ 紹介する本のポップや帯をつくる活動に事前に取り組むことで、物語の概要を楽しんでつかむ機会を設定する。

手立て2 学習形態や方法の工夫

- ① 本のテーマを「きつねの出てくる物語」に絞ることによって、共通点や相違点を見つけやすいようにする。
- ② 同じ本を選んだ共通の小グループ内の発表から→中グループ→大きなグループと形態をかえることによって、回数を重ねさせ、発表の仕方や聞き方、ディスカッションの仕方が上達できるようにする。
- ③ ディスカッションや投票の場面を取り入れることによって、聞く側がチャンプ本を選ぶときに話す側の発表を集中して聞く必要感をもたせるようにする。

手立て3 効果的な伝え方の工夫

- ① 相手に読んでみたいと思わせるような発表原稿の構成を考えるために、様々な言葉の表現方法を指導し、活用させる。
- ② 発表の方法として、ペープサート・さし絵・音読の3つにしぼって、効果的に発表させ、聞き手が比較しやすい発表にする。
- ③ 発表原稿を考える際に、メモで一度整理させることによって自分の伝えたいことを吟味させ、相手に伝わりやすい構成を考えさせる。

IV 授業実践

仮説1 身近にある題材をもとに学習の目的を設定すれば、意欲が高まり、思いや考えを主体的に伝えることができるだろう。

吉岡小学校3年2組の実践

1 単元名 係の活動について考えよう ～お楽しみ会に向けて学級会を開こう～

2 単元について

(1) 単元観 本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

第3学年及び第4学年 新学習指導要領

(思考力、判断力、表現力—話題の設定、情報の収集、内容の検討)

ア 目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶこと。

(思考力、判断力、表現力—話すこと)

イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること。

(思考力、判断力、表現力—聞くこと)

エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。

(思考力、判断力、表現力—話し合うこと)

オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること。

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

ウ 互いの考えを伝えるなどして、グループや学級全体で話し合う活動。

教育出版「小学国語上巻」第五単元『たからものをしょうかいしよう』に続く「話すこと・聞くこと」の単元である。そこでは、紹介するものがなぜ自分にとって宝物であるのかを相手に伝える活動をしてきた。そこで身に付けた「理由を挙げて話す力」を本単元でも発揮させていく。また、話し合いの系列としては、二年上巻第七単元『「グループ発表会」をひらこう』に関連しており、ここでも合意形成のためのグループの話し合いが中心であった。本

単元ではさらに、司会者や提案者、記録者などの役割、また発言者としての役割を果たしながら、全員で意見を一つに集約していく力をつける。

本学級の児童は、話し合いへの意欲は高いが、自分の意見に固執する姿も見られる。合意形成にいたるには、「譲り合う」ではなく、お互いの考えの共通点や相違点を捉え、司会者が整理をし、それぞれの考えを反映させて、一致点を見付けていくことが重要である。

教科書の「話し合いの様子」では、発言例の上に発言者（司会者・提案者）の役割などを意識した心の動きを吹き出しで示し、話し合いのポイントを示している。話す側、聞く側についての着眼点となるため、実際の話し合いに入る前に活用させる。また、記録者のノート例を発言者と対応させながら確かめさせ、議事進行に役立てたり、話し合いの過程や結論の保存として役立てたりすることを意識させていく。

(2) 児童の実態 (男子15名 女子14名 合計29名 H30.11.9実施)

質問	解答 (%)	理由	
・国語のどんな学習が好きですか。 (複数回答可)	時を書く	17人	
	物語を読む	11人	
	話し合い活動	6人	
	文章を書く	5人	
	時を読む	3人	
	漢字	2人	
	俳句を作る	2人	
	グループ活動	1人	
	・お話することは好きですか。	とても好き 11人(38%)	楽しいから
気持ちがよくなる			4人
自分のことを知ってもらえる			3人
好き 11人(38%)		伝えたいことが伝わる	2人
		話すことが好き	2人
		話すとすっきりする	2人
		わくわくする	1人
あまり好きではない 5人(17%)		上手に話せない	2人
		自信がない	2人
		友だちが少ない	1人
好きではない 2人(7%)	話す気がない	1人	
	話すよりも他のことがしたい	1人	

<p>・お話を聞くことは好きですか。</p>	<p>とても好き 9人(31%)</p>	<p>楽しいから 7人</p> <p>おもしろい 4人</p> <p>たくさんの考えが聞ける 3人</p> <p>自分と違う意見が出るから 3人</p>
	<p>好き 17人(59%)</p>	<p>新しい発見がある 3人</p> <p>わくわくする 2人</p> <p>悩みが聞ける 1人</p> <p>無回答 3人</p>
	<p>あまり好きではない 2人(7%)</p>	<p>話したことがあまりない 1人</p>
	<p>好きではない 1人(3%)</p>	<p>聞いていない 1人</p> <p>興味がない 1人</p>
<p>・みんなの前で話すとき、気を付けていることは何ですか。 (複数回答可)</p>	<p>わかりやすい言葉を使う 21人</p> <p>本当のことを話す 20人</p> <p>ゆっくり話す 18人</p> <p>聞いて楽しい話をする 16人</p> <p>大きな声で話す 14人</p>	
<p>・話を聞くとき、気を付けていることは何ですか。 (複数回答可)</p>	<p>最後まで聞く 25人</p> <p>他の人とおしゃべりをしない 21人</p> <p>話している途中で口を挟まない 21人</p> <p>耳と目の両方で聞く 20人</p> <p>よい姿勢で聞く 18人</p> <p>相手の目を見る 17人</p> <p>質問をする 15人</p> <p>うなづく 14人</p>	
<p>・クラスで話し合うことは好きですか。</p>	<p>・好き 28人(97%)</p>	<p>いろいろな意見が聞ける 12人</p> <p>楽しい 5人</p> <p>話すことが好き 3人</p> <p>すっきりする 2人</p> <p>自分の意見が言える 2人</p> <p>みんなの気持ちが開ける 1人</p> <p>みんなで考えられる 1人</p> <p>意見を出し合える 1人</p>
	<p>・苦手 1人(3%)</p>	<p>緊張して話せない 1人</p>

「お話することは好きですか」の質問では、「楽しいから好き」、「話していると気持ちがよくなる」と答えている児童が76%と多い。友達同士で同じ趣味の話や学校での話をしていく児童をよく見かける。あまり好きではない・好きではないと答えている児童は、24%となった。理由は、「上手に話せない」など話すことに自信がない児童が多いことが分かった。

「お話を聞くことは好きですか」の質問では、とても好き・好きと答えている児童が90%とクラスの大半を占めている。苦手な児童の理由としては、「友達の話に興味がない」、「聞いていない」と答えている。残りの10%の児童については、普段の姿を見ていると友達と会話をしている姿をよく見る。興味のある話は楽しんで行えるが、伝えたい事を中心を押さえて話したり、友達の発表を聞いて自分の考えを伝えたりすることは苦手だと感じる。

これまで国語の授業の初めに、スピーチを行ってきた。「みんなの前で話すとき気を付けていることは何ですか」の質問では、「わかりやすい言葉で話す」や「本当のことを話す」が上位にあがった。「話を聞くときに気を付けていることは何ですか」の質問では、「最後まで聞く」や「話している途中で声を挟まない」が多く上がった。

「クラスで話し合うことは好きですか」の質問では、クラスの大半が「好き」と答えた。一人の児童が緊張して話せないために苦手だと答えた。学級全体としては、話し合いの時間に積極的に話し合いに参加している児童は半分にも満たない。大半の児童が話し合いを見ているだけで、提案をしたり質問をしたりする児童は少ないと感じる。

(3) 指導観

3年生も後半になり、児童の中でもクラスで話し合いたいことや友達に聞いてほしいことが増えてきた。そこで、「クラスをもっとよくするにはどうしたらよいだろうか。」と尋ねると、どうしたらよいかわからず、戸惑ってしまっている様子が伺えた。そのため、小中一貫教育の中で交流のある中学校区の山梨小の4年生に「クラスでの問題をどのようにして解決しているのか。」と質問すると、「話し合うための議題箱を設置し、そこに課題を入れるようにして学級で話し合って解決している。」との回答を得た。そこで、自分たちのクラスでも実践してみたいと意見が出たため、いつでも話し合いのテーマにしたい情報を入れられるように『話し合いBOX』を設け、テーマを募集する。

募った話し合いのテーマを元に、児童だけで話し合い活動を行う。その様子をビデオに撮っておき、話し合っている様子を見せる。見せた後に、話し合いをする時に必要な役割やポイントについて話し合わせる。3学年のねらいとして、①司会者は話し合いを進行すること、提案意見の共通点と相違点を見つけること②記録者は誰が見ても分かりやすい記録をとること③提案者は理由を付けてはっきりと意見をいうことの3つが挙げられている。3つのねらいを児童に押さえさせながら学習のゴールとなる2学期のお楽しみ会を開くための話し合いを設定することにした。

5～6人のグループを作り、役割を決める。役割は、司会者・提案者・記録者の3つと時

計係を設定した。時計係は、児童が時間を気にせず話し続けてしまうことを防ぐために設定した。話し合いを自分たちだけで進めた経験がない児童たちがスムーズに話し合えるように、司会者に原稿のヒントカードを持たせる。ヒントカードを見て司会を行わせることで、自信を持って進めさせたい。学年の終わりには、ヒントカードがなくても話し合いが進められるよう指導をしていきたい。

3 単元の目標

- 相手に伝わるように理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
(思考力、判断力、表現力—話すこと)
- 必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことができる。
(思考力、判断力、表現力—聞くこと)
- 話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えを持つことができる。
(思考力、判断力、表現力—聞くこと)
- 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
(思考力、判断力、表現力—話し合うこと)
- 日常の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を進んで選ぶことができる。
(学びに向かう力、人間性)

4 指導計画（9時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
一次	1	・『話し合いBOX』に提案されたテーマを元に児童だけで話し合い活動を行う。	・友達の見聞き、自分のやりたい遊びを考えることができる。 (聞くこと) (発表)
	2	・1時間目に行った自分たちの話し合いの姿を見て、必要だと感じた役割や、話し合いのポイントについて、教科書の「係の活動について考えよう」を使って学習する。	・話し合い活動にはどんな役割が必要なのか話し合うことができる。 (話し合うこと) (ノート)
	3		

	4 5	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者や提案者、記録者が行う役割について読み取り、理解をする。 ・グループを組んで3つの役割の文章を交互に読み、わかったことについてふり返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・司会者や提案者、記録者の役割について理解し、グループでわかったことについて話し合うことができる。 <p>(話し合うこと)〈ノート〉</p>
二次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで役割を決め、『お楽しみ会でしたいこと』について案を出し、その中から提案するものを3つ選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お楽しみ会でしたいことについて全体で案を出し、その中から自分のやりたい遊びを意欲的に決めることができる。 <p>(学びに向かう力、人間性)〈発表〉</p>
	7 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの提案をし、共通点と相違点を見付け話し合い、各グループで一つの提案に絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞こうとしている。 <p>(聞くこと)〈ワークシート・発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合おうとしている。 <p>(話し合うこと)〈発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめようとしている。 <p>(話し合うこと)〈ワークシート〉</p>
	8	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループで出た提案を元に学級全体で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞こうとしている。 <p>(聞くこと)〈ワークシート〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合おうとしている。 <p>(話し合うこと)〈発表〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめようとしている。 <p>(話し合うこと)〈ワークシート〉</p>

三 次	9	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いで決定したことについて実施計画を立て、話し合いを行う。(学級活動) ・1回目に話し合ったときの姿と最後に話し合ったときの姿の映像を見て自分たちの成長を確認し、次の話し合い活動に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをしている姿を客観的に見て、自分たちの変わったところを話し合うことができる。 <p style="text-align: right;">(話し合うこと) (発表)</p>
--------	---	--	---

5 本時の指導

(1) 本時の目標

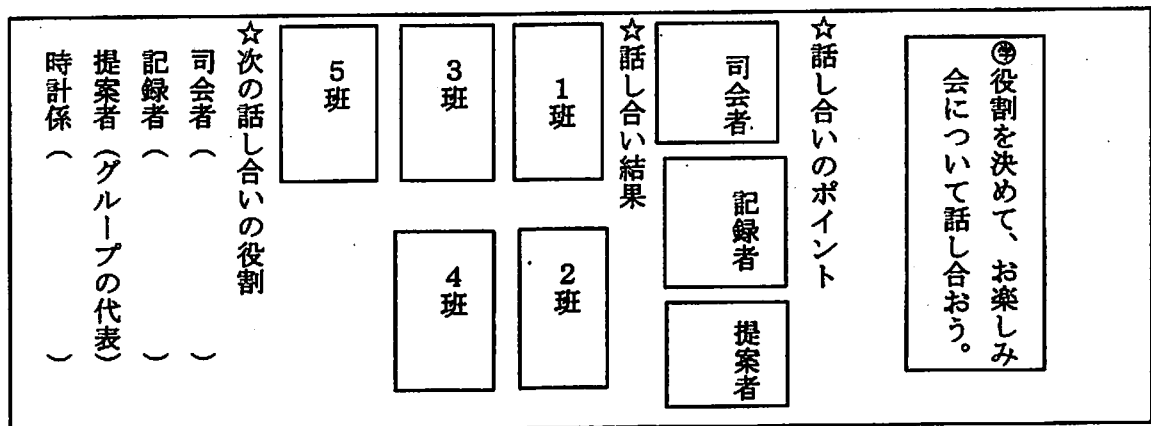
- 必要なことを記録したり質問したりしながら聞くことができる。
(思考力, 判断力, 表現力—聞くこと)
- 互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。
(思考力, 判断力, 表現力—話し合うこと)
- 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら意欲的に話し合うことができる。
(学びに向かう力, 人間性)

(2) 展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
5	1 話し合いの仕方を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの仕方を全体で確認させる。 ・提案をするときは必ず理由をつけて話すように指導する。 	司会のヒントカード 提案のヒントカード 記録用紙
④ 役割を決めて、お楽しみ会について話し合おう。			
2 3	2 グループに分かれて、司会者を中心に話し合いを行う。 ○司会者 ・進め方を確認し、相違点や共通点を見つけるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ○必要なことを記録したり質問したりしながら聞こうとしている。 (聞くこと) (ワークシート・発言) ○目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合おうとしている。 (話し合うこと) 	ホワイトボード

<p>1 2</p> <p>3</p> <p>5</p>	<p>○記録者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの内容がわかるように、提案者の提案や理由を記録する。 <p>○提案者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提案だけではなく、必ず理由をつけるようにする。 「○○を提案します。理由は○○だからです。」 <p>3 話し合った結果を全体で発表する。</p> <p>4 ふり返りを行う。</p>	<p>○互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめようとしている。</p> <p>(話し合うこと)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司会をするときに必要な言葉を集めた司会のヒントカードを元に司会をさせる。 ・提案をするために、提案の仕方や理由の述べ方を理解させ、ヒントカードを見ながらでも理由が話せるようにする。 ・発表をするときは、理由もしっかりと話すようにさせる。 ・記録者にグループで話したことを発表させる。 ・提案のあとに必ず理由を付けるようにさせる。 ・ふり返りを行い、次時にはクラス全体で話し合いをすることを提示する。 	<p>司会のヒントカード</p> <p>ホワイトボード</p> <p>ふり返りカード</p>
------------------------------	--	---	--

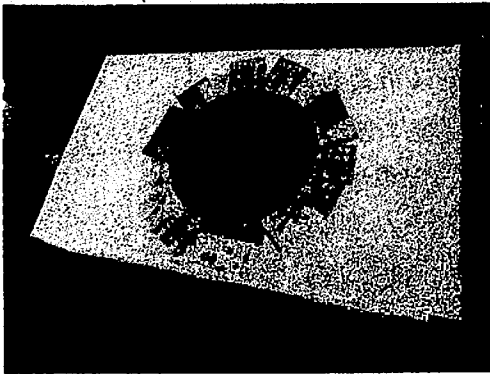
(3) 板書計画



V-1 手立てに対する児童の変容

手立て1 身近にある題材を活用するための工夫

- ① 話し合いの内容を自分たちで見つけ、常に話し合える場を作ったため、主体的に話し合いを行おうとする姿勢が見えた。



山梨小の友達から教えてもらったいつでも話し合いができる話し合いBOX

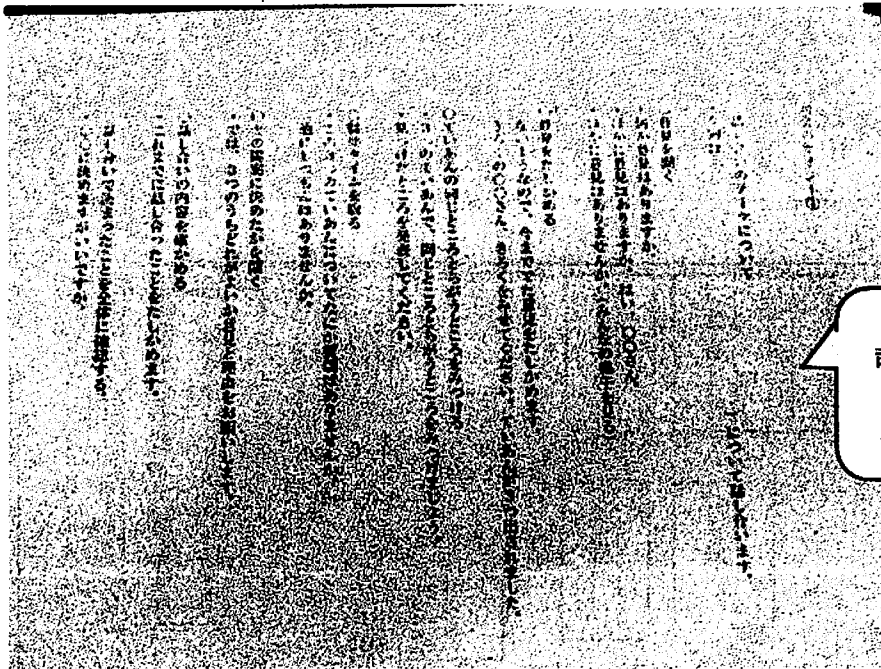
- ② 小中一貫教育における中学校区での協力体制

・話し合い活動を円滑に行うにあたり、話し合う内容を見つける手がかりを山梨小の4年生からアドバイスをもらったため、児童から議題を集めた内容を意欲的に話し合うことができた。

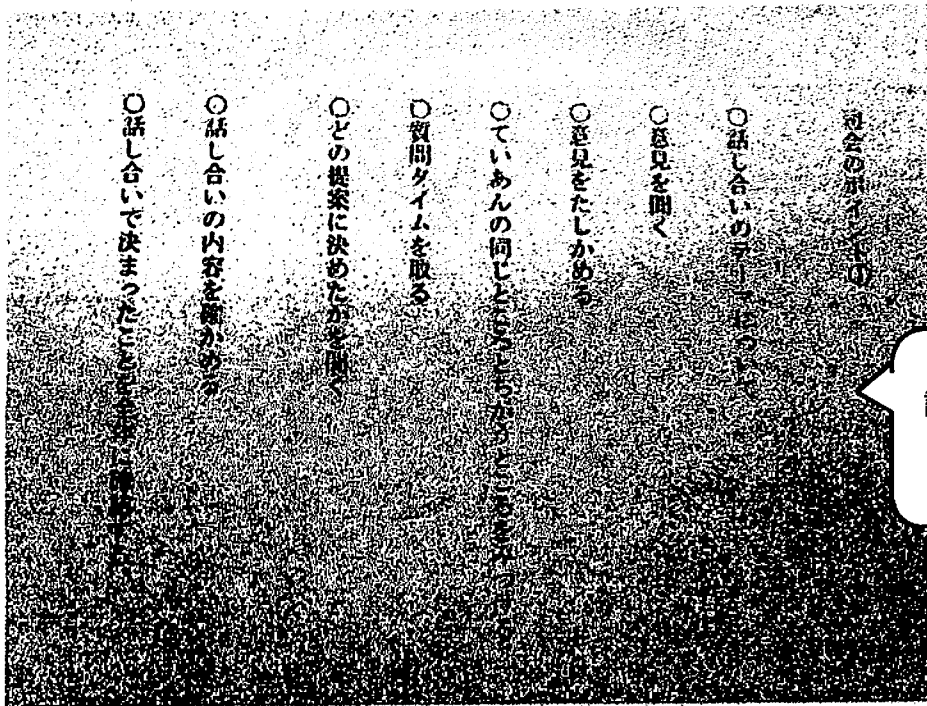
手立て2 話し合い活動の工夫

- ① 主体的に伝え合う場の設定

・司会者が話し合いを自ら進行出来るように、2種類のヒントカードを用意することで、児童一人でも司会をすることができた。

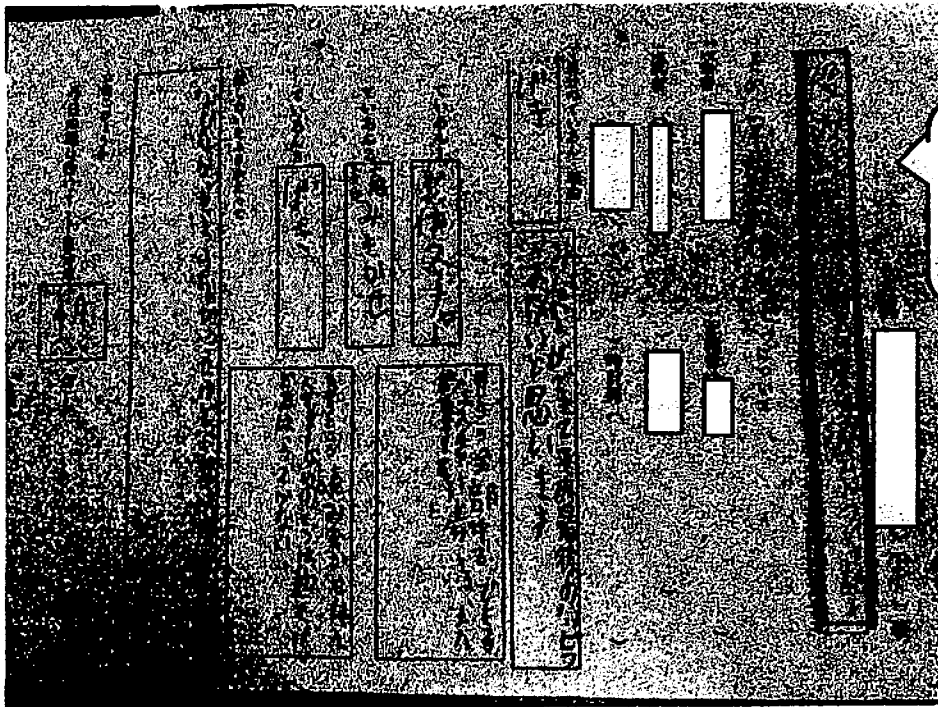


司会の台詞が全て載っているワークシート



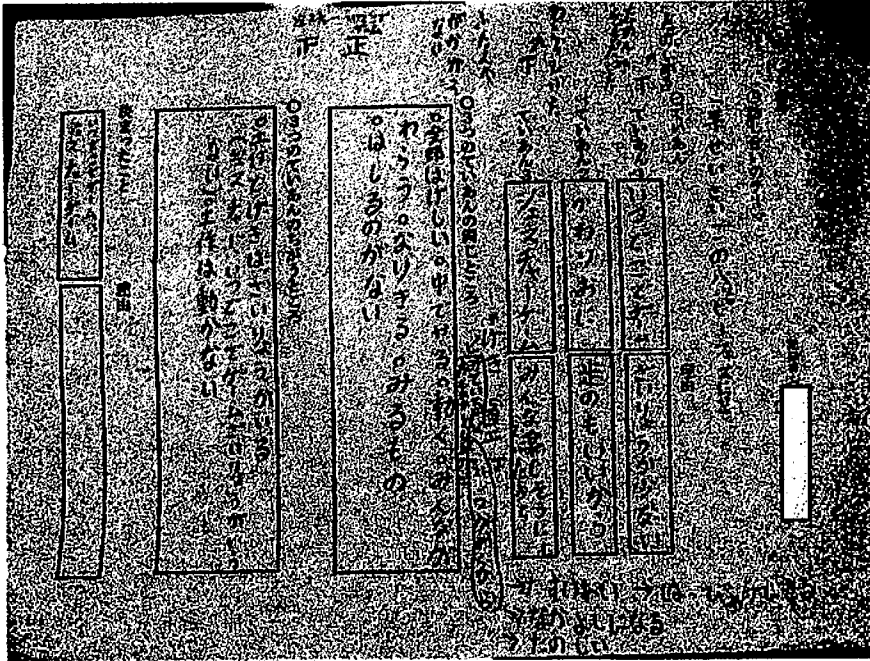
話し合いの流れのみの
ワークシート

・自分が提案したい遊びの内容と長所をワークシートに書かせ、整理させることで、自信をもって発表することができた。



自分の提案を書く
ワークシート

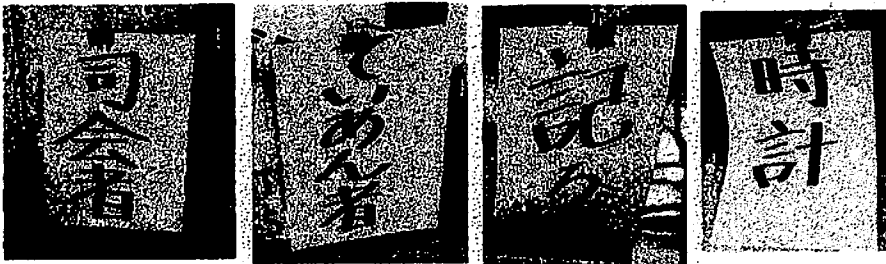
- ・記録者に話し合いの議事録を取らせることによって、聞き逃しを防ぎ、意見の混乱を防ぐことができた。



記録用紙

② 役割の工夫

- ・個々の役割を理解し、それぞれが名札をつけることで、意欲的に話し合い活動に取り組むことができた。



役割の自覚を促すとともに誰がどんな役割をしているのか一目でわかる名札

- ・提案をするときに理由もしっかり話せるように確認シートを持たせたことにより、提案者はしっかりと理由も付けて話せるようになった。



提案者には理由もしっかり話せるように確認シートを持たせた。

話すことが得意なB児

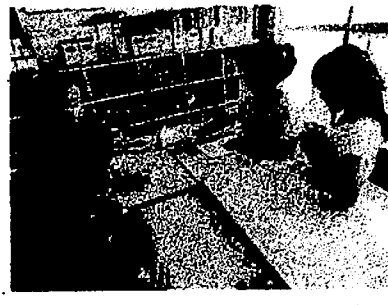
11月22日 (木)	・テーマに沿って話し合うことができたか。	・あいてにわかるように話せたか。	・意見だけでなく、理由も話すことができたか。	・話したいことをまとめてわかりやすく話せたか。	・必要なことをメモしたり、うなずいたりしながら聞けたか。	・わからないことは質問することができたか。	・あいてが話したいことを考えながら聞くことができたか。	・自分の役わりをりかいて話し合いにみんなができたか。	・意見のちがうところを中同じところに気づくことができたか。
	◎	○	△	△	△	△	◎	◎	◎

話をするときにどのように話したら相手に伝わるか、またまとめてわかりやすく話すにはどうしたよいかわからなかった。

11月27日 (火)	・テーマに沿って話し合うことができたか。	・あいてに伝わるように話せたか。	・意見だけでなく、理由も話すことができたか。	・話したいことをまとめてわかりやすく話せたか。	・必要なことをメモしたり、うなずいたりしながら聞けたか。	・わからないことは質問することができたか。	・あいてが話したいことを考えながら聞くことができたか。	・自分の役わりをりかいて話し合いにみんなができたか。	・意見のちがうところを中同じところに気づくことができたか。
	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

要点をまとめて、理由もつけて話しをすることで、相手にわかりやすく話すことができるようになった。

話し合いの様子



仮説2 学習形態や方法を工夫すれば効果的に伝え合うことができるだろう。

山梨小学校4年1組での実践

1 単元名

「読書発表会」をしよう ～ビブリオバトルで本の魅力を伝え合おう～

2 単元について

(1) 単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

<p>第3学年及び第4学年 新学習指導要領</p> <p>(思考力、判断力、表現力等—話すこと)</p> <p>イ 相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること。</p> <p>ウ 話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等—聞くこと)</p> <p>エ 必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。</p> <p>(思考力、判断力、表現力等—話し合うこと)</p> <p>オ 目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめること</p> <p>(思考力、判断力、表現力等—書くこと)</p> <p>ア 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすること。</p> <p>(学びに向かう力、人間性等—)</p> <p>言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書し、国語を大切にして、思いや考え伝え合おうとする態度を養う。</p>

本単元は、教育出版社小学校国語4年下の「読書発表会」をしようの単元の中にビブリオバトルを取り入れた。ビブリオバトルに取り組むことにより人との関わりの中で本の良さを知り本と人を介して、読み広げていくことができると考える。また、ビブリオバトルは、ゲーム感覚で楽しみながら取り組めるという点から、普段話すことや聞くことが苦手と感じている児童も取り組みやすいのではないかと考える。また、ビブリオバトルに取り組むことにより、聞き手を意識しながら話すことができ、相手や目的を意識して話す力を高めていけ

ると考える。同様に、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことを中心を捉える、聞く力もつけることができると考えた。さらに、話し合う活動を加えることにより、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめる力もつけていけるのではないかと考えた。

ビブリオバトルは、2007年京都大学から広まった論読回・読書会、または勉強会の形式でbiblio(本)のbattle(戦い)＝「知的書評合戦」とも呼ばれている。各自が「読むべき本＝人に薦めたい本」を持ち寄り、5分間の制限時間内でプレゼンテーションを行い、聴衆による「一番読みたい本」＝「チャンプ本」の決定をするという一連の流れのことをいう。

(参考 公式サイト <http://www.bibliobattle.jp/>)

今回は、小学4年生の実態にあわせ、制限時間を5分間ではなく3分間の設定にした。同じ本を選んだ3、4人グループでビブリオバトルの予選やディスカッションを行い、勝ち進んだ児童が準決勝、決勝と同じ流れで行っていく。決勝では、ビブリオバトルに取り組んだことのある5年生に参加してもらいディスカッションや投票に加わってもらって、ビブリオバトルに対する意欲を高めて行きたい。また、チャンプ本は山梨小図書室に掲示できるように司書と連携する。

(2) 児童の実態 (男子11名 女子10名 合計21名 H30.12.19実施)

本単元を指導するにあたり、次のような意識調査を行った。

	質問	解答			
		はい	どちらかとい えば、はい	どちらかとい えば、いいえ	いいえ
1	話すことは好きですか。	9名 (43%)	4名 (19%)	7名 (33%)	1名 (5%)
	〈はいの主な理由〉 ・気持ちを伝えるのが好き。3名 ・考えを聞いてもらいたい。2名 ・意見を言うのが楽しい。 ・共感してもらえ、笑顔になるから。 ・考えが広がるから。		〈いいえの主な理由〉 ・緊張して上手く話せない。3名 ・恥ずかしい。2名 ・何と云えばいいかわからない。2名		
2	聞くことは好きですか。	11名 (52%)	6名 (29%)	3名 (14%)	2名 (10%)
	〈はいの主な理由〉 ・色々なことを知れ、楽しい。5名 ・相手のことがわかるので 考えを聞くのが好き。5名		〈いいえの主な理由〉 ・面倒くさい。 ・話が長い。		
3	相手に合わせた話し方が できますか。	11名 (52%)	3名 (14%)	7名 (33%)	0名

	〈はいの主な理由〉 どのようなことに気をつけているのか。 ・低学年には優しい言葉遣いで話す。 8名 ・先生や目上の人には丁寧な言葉遣いで話す。 3名				
4	相手の話をしっかり聞く ことができますか。	3名 (14%)	8名 (38%)	9名 (43%)	1名 (5%)
	〈はいの主な理由〉 どのようなことに気をつけているのか。 ・話す人の方を向く。 3名 ・目を見る。 2名 ・先生や日直が前に出たら話をやめて聞く。 ・先生の聞き逃さないようにする。				
5	相手にわかってもらえる ように話すことはできま すか。	3名 (14%)	6名 (29%)	10名 (48%)	2名 (10%)
	〈はいの主な理由〉 どのようなことに気をつけているのか。 ・分かりやすいようにゆっくり話す。 2名 ・相手が分かるように簡単に話す。 ・身振りをつけて分かりやすく話す。 2名 ・自分の言葉で話す。				
6	話し合うことは好きです か。	11名 (52%)	6名 (29%)	3名 (14%)	0名
	〈はいの主な理由〉 ・いろんな意見が聞ける。 12名 ・たのしいから。好きだから。 3名 ・意見を言うのが好き。 ・得意だから。		〈いいえの主な理由〉 ・苦手だから。 3名 ・周りの様子が気になるから。 3名 ・恥ずかしいから		

本学級の児童は、男女の仲がよくどの教科においても活発に学習に取り込むことができている。アンケートから話すことが好きな児童は62%、聞くことが好きな児童は81%である。一方で、「相手の話をしっかり聞くことができますか。」「相手にわかってもらえるように話すことはできますか。」に対して「はい」と答えている児童は14%であった。学習には意欲的に取り組めてはいるものの実際にできているかを問われると自信がない児童が多い様子がうかがえる。話し合うことが好きな児童は81%ということから話し合うことへの関心は、高いといえる。

(3) 指導観

ビブリオバトルを行うにあたり、2学期に5年生が授業の中に取り入れ行っていたことから5年生にモデルとなってもらう。チャンピオンになった児童に4年生の前でチャンプ

本になった本の発表をしてもらい、ビブリオバトルへのイメージをつかませていく。チャンピオンの発表の中でどんな話し方が聞き手にとって読んでみたいと思わせていたのかを考えさせながら今までの話し方を振り返り、話し方について考えていく。また、同時に聞き方も考えていく。新学習指導要領の3・4年生の話すこと目標になっている「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えること。」「話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫すること。」「聞くことでは、「必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつこと。」を意識させながらめあてのカードを活用する等して指導に取り組んでいく。

ビブリオバトルの学習の前に「ごんぎつね」の学習を行っている。ビブリオバトルに取り組むにあたり、ビブリオバトルをする本を「きつねに関わる本」に絞り進めていく。小グループに分かれて「きつね」の本に絞ることにより、前時に学習した「ごんぎつねのごん」の性格と自分の選んだ本に出てくるきつねの性格を比較し、共通点や相違点にも着目しやすくなるのではないかと考える。

ビブリオバトルを行ったあとには、そのグループごとに司会、記録、の役割をつくり、ディスカッションを行う。友達の話し方や聞き方など良いところに気付かせ、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめていきたい。最終戦には、5年生や先生方を招き、ビブリオバトル決勝戦を行う。チャンプ本になった本は、図書室に展示して全校に紹介するようにし、最後まで意欲を継続させていけるように進めていきたい。

3 単元の目標

- ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫しながら、本の紹介をすることができる。
(思考力、判断力、表現力等－話すこと)
- ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。
(思考力、判断力、表現力等－聞くこと)
- ・共通点や相違点に着目し、考えをまとめながら発表やディスカッションをすることができる。
(思考力、判断力、表現力等－話し合うこと)
- ・相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。
(思考力、判断力、表現力等－書くこと)
- ・「ビブリオバトル」で、自分のお勧めの本を紹介する活動を通して思いや考えを伝え合おうとしている。
(学びにむかう力、人間性等)

4 指導計画（7時間扱い）

学習過程	時配	学習内容と学習活動	評価規準（評価の観点・評価方法）
一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの内容とルールを知る。 ・5年生のチャンピオンの発表を聞き思ったことや気づいたことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの目的を理解しようとしている。 （学びにむかう力、人間性等） ・発表を聞き思ったことや気づいたことを発表する。 （聞くこと）（話すこと） （発言）
二次	2	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容を整理し、メモを作成する。 ・どのような表現を使えば相手に伝わるのか考える。また、様々な言葉の表現方法を知り使いたい表現を選ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本の内容を整理し、メモを作成している。 （書くこと） （ワークシート）
	3	<ul style="list-style-type: none"> ・紹介する本について、スピーチをする内容のメモや発表原稿を作成する。 （メモ→発表原稿） 	<ul style="list-style-type: none"> ・お勧めの本を紹介するメモを作成している。 （書くこと） （発表原稿）
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルの発表方法について考える。 （ペープサート・お気に入りの絵・音読） 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のお勧めの本を発表する方法を考え練習している。 （話すこと） （ワークシート）
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・発表原稿をもとにスピーチをする練習をする。 ・時間を計り、3分程度の発表になるように加除訂正する。 ・グループが違う友達と見合い、アドバイスを出し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方を考えながら友達と練習している。 （話すこと） （発言）
三次	6	<ul style="list-style-type: none"> ・「ビブリオバトル」予選を行う。 （同じ本を選んだ3人グループ） 	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫しながら、本の紹介をしている。 （話すこと） ・共通点や相違点を考えながら聞いたりしている。 （聞くこと） ・共通点や相違点に着目し、考えをまとめながら発表やディスカッ

			<p>ションをすることができる。 (話し合うこと) (発表)〈ワークシート〉</p>
	7	<p>・「ビブリオバトル」準決勝を行う。 (別な本を選んだ3人グループ)</p>	<p>・言葉の抑揚や強弱, 間の取り方を工夫しながら, 本の紹介をしている。 (話すこと)</p> <p>・共通点や相違点を考えながら聞いたりしている。 (聞くこと)</p> <p>・共通点や相違点に着目し, 考えをまとめながら発表やディスカッションをすることができる。 (話し合うこと) (発表)〈ワークシート〉</p>
	8 本 時	<p>・「ビブリオバトル」決勝を行う。 ・「ビブリオバトル」を行い「チャン プ本」を決定する。 (5年生や先生方に聴衆して投票 してもらおう)</p>	<p>・言葉の抑揚や強弱, 間の取り方を工夫しながら, 本の紹介をしている。 (話すこと)</p> <p>・共通点や相違点を考えながら聞いたりしている。 (聞くこと)</p> <p>・共通点や相違点に着目し, 考えをまとめながら発表やディスカッションをすることができる。 (話し合うこと) (発表)〈ワークシート〉</p>
四 次	9	<p>・チャンプ本を図書室に展示し, 全 校に紹介する。</p>	

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・言葉の抑揚や強弱, 間の取り方を工夫しながら, 本の紹介をすることができる。
(思考力, 判断力, 表現力等—話すこと)
- ・相違点や共通点を探しながら友達の発表を聞くことができる。
(思考力, 判断力, 表現力等—聞くこと)
- ・共通点や相違点に着目し, 考えをまとめながら発表やディスカッションをすることができる。
(思考力, 判断力, 表現力等—話し合うこと)

(2) 本時の展開

時配	学習内容と学習活動	指導・支援 ○評価	資料
3	1 本時の学習内容を確認する。 ・「ビブリオバトル」の決勝の流れを確認する。	・決勝までの流れを模造紙で掲示し、振り返られるようにする。	模造紙 (トーナメント)
3	2 本時のめあてを確認する。 ・聞く人、話す人のポイントを振り返る。	・聞く人、話す人の観点を板書して、意識づけをする。	
<p>「ビブリオバトル」で本のよさを伝え、本の魅力を知ろう。</p>			
15	3 代表者3名のビブリオバトルを行う。 ・「ともだちひきとりや」 ・「ごめんねともだち」 ・「てぶくろをかいに」	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトルシートを配付し、書き方を説明する。発表後にすぐにメモをするように伝える。 ・書くことが苦手な児童には、聞く人、話す人の観点が出来ていたか書くように伝える。 ・発表者と発表者の間にシートに記入する時間を設ける。 ○抑揚や強弱、問の取り方を工夫しながら、本の紹介をしているか。(話すこと) ○相違点や共通点をふまえてシートに記入しているか。(聞くこと) ○共通点や相違点に着目し、考えをまとめながら発表やディスカッションしているか。(話し合うこと) 	ワークシート ストップウォッチ
10	4 ディスカッションを行い、質問や感想を伝えあう。	・司会者に司会者進行シートを配布し、それをヒントにしながらディスカッションの進行を助言する。	司会者進行シート

5	5 投票を行う。 ・3名の中から1名に投票する。 ・投票を待っている間、今日の授業の感想を書く。	・学年別に集めて教員が投票を集計する。	投票用紙
4	6 結果発表を聞く。	・お互いに讃え合い拍手をさせる。	
5	7 本日の活動を振り返る。 ・今までの感想や今日の感想を発表する。	・今日までの頑張りを認めながらこれからの意欲を高める。	

(2) 板書計画

予選からのトーナメント 拡大図	ポイント ○聞くとき ○話すとき	ビブリオバトルで本のよさを伝え、知ろう。
--------------------	------------------------	----------------------

V-2 手立てに対する児童の変容

手立て1 学習の見通しと意欲付け

① 児童と一緒に学習計画を立て、活動目的をはっきり意識させて、計画表を提示することにより授業の見通しがもたせることができた。毎回どのような活動をするのか意識し、ビブリオバトルを行うまでに準備が足りない部分を各自練習や用意を進んで行うことができた。

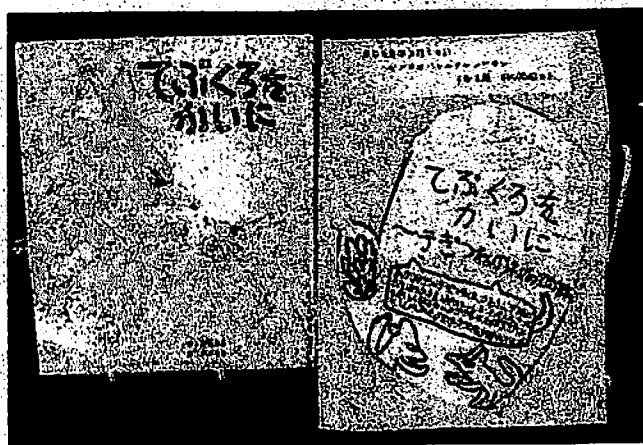
7 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルを聞く。1名はチャンピオンを決める。 ・活動おアドバイスを聞く。	6 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルをする。 ・活動おアドバイスを聞く。	5 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルをする。 ・活動おアドバイスを聞く。	3・4 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルをする。 ・活動おアドバイスを聞く。	2 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルをする。 ・活動おアドバイスを聞く。	1 (/) ・5年生は3名のビブリオバトルをする。 ・活動おアドバイスを聞く。	時 半 登 録 表
---	---	---	---	---	---	-----------------------

- ② 5年生のビブリオバトルのチャンピオンが4年生のモデルとなり、提示したことにより、イメージがふくらみ取り組みやすかった。また、そのチャンプ本を読みたいという気持ちになった児童が多く、そのためには聞き手に問いかける語り口が効果的だと気づくことができた。また、他にもどのような話し方をすれば聞き手が読みたいという気持ちになるのか考えを出し合い、自分なりに発表の手順を考えて本を紹介することができた。



ビブリオバトル
1時間目
5年生のチャンピオン
が4年生へ自分のおす
すめの本を発表しにき
てくれました。

- ③ 「チャンプ本」に選ばれた本の紹介コーナーを設けることを知らせることによって、2回目も行いたいという意見があり、更なる学習意欲を生むことができた。



チャンピオンが決定し
たあとに図書室に掲示
しました。

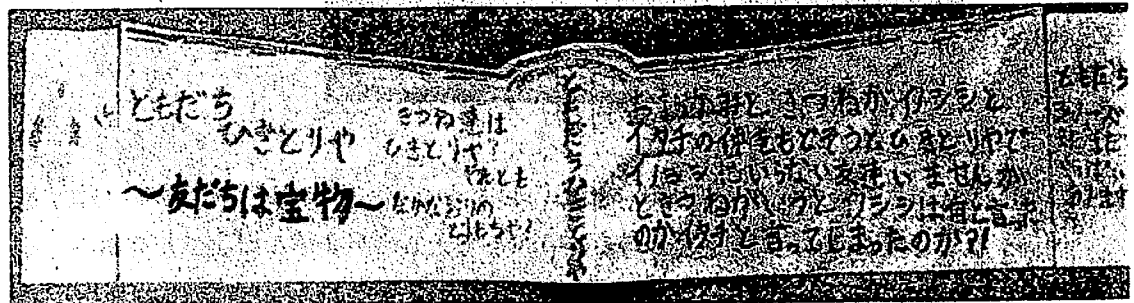
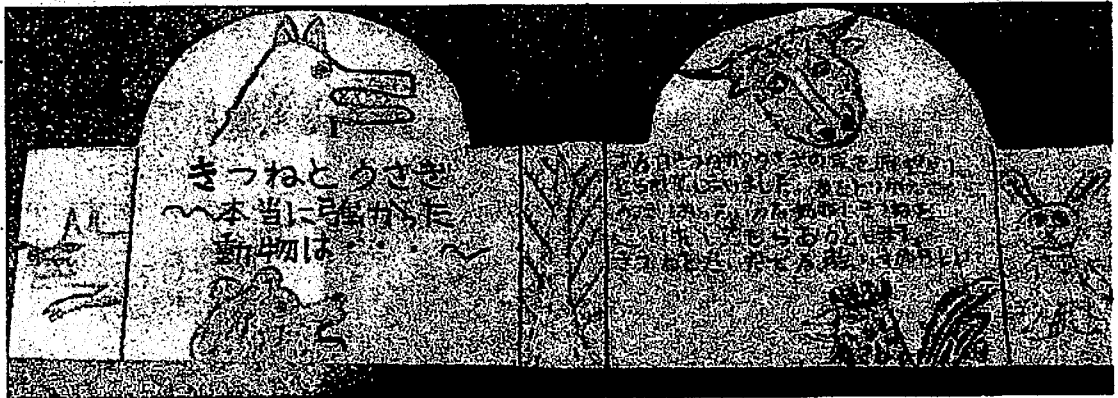
- ④ 2年生のときに学習した「きつねのおきゃくさま」を選択する本の候補に、取り入れることにより、本の概要をつかみ、構成を考えるのが苦手な児童がとり組みやすくなった。既に内容を把握しているので文の構成を作ることがスムーズにできた。

↓ 普段本や文を読むことを苦手としている児童のきつねのおきゃくさまの帯



既習の「きつねのおきゃくさま」の本のあらすじをまとめ、絵を添えて帯をつくることができています。

- ⑤ 紹介する本のポップや帯をつくる活動に事前に取り組むことで、楽しんで物語の概要を把握することができた。その後、ビブリオバトルに取りかかったので詳しい内容が把握でき、取り組みやすかった。





手立て2 学習形態や方法

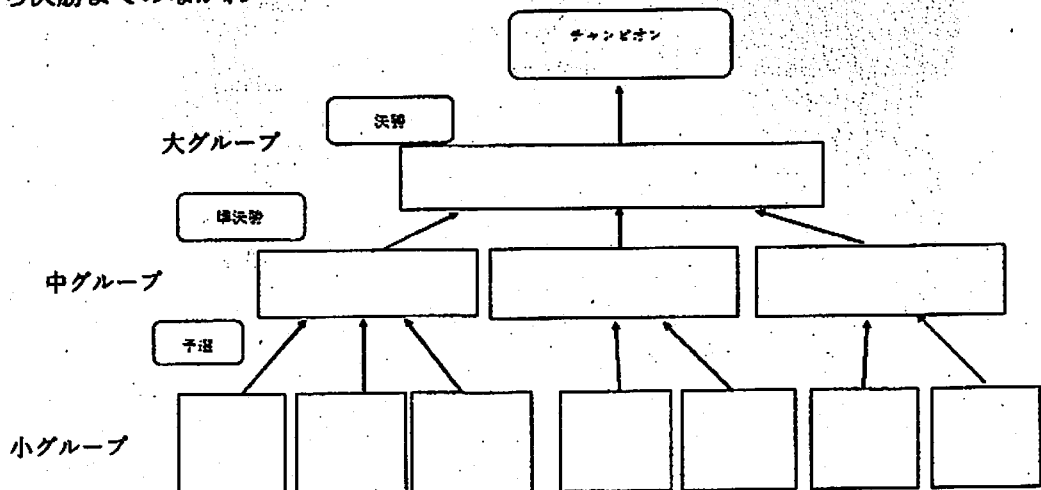
- ① 本のテーマをきつねが主人公の本と絞ることによって、共通点や相違点を見つけやすく初めてビブリオバトルに取り組む4年生の実態にあった。

〈ビブリオバトルで使用した本〉

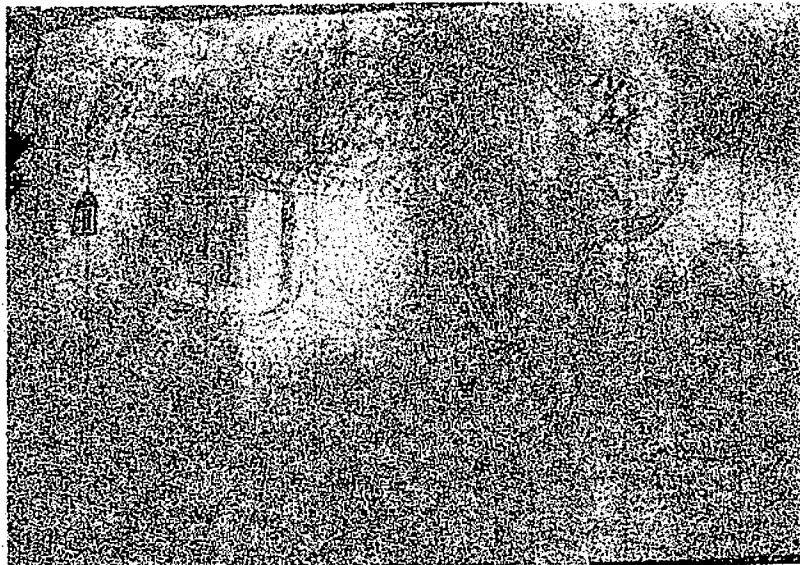
- ・「きつねのおきやくさま」 あまんきみこ
- ・「きつねのホイティ」 シビルウェッタシンハ
- ・「てぶくろをかいに」 新美南吉
- ・「きつねとうさぎ」 ロシアの昔話
- ・ともだちやシリーズ 内田倫太郎
- ・ちょっとまって、きつねさん カトリーン・シェーラー

- ② 同じ本を選んだ共通の小グループ内の発表から→中グループ→大きなグループと徐々に形態を大きなものへと変かえることにより、話す側、聞く側、ディスカッションの回数を重ねることができた。そのため、話し方、聞き方、ディスカッションの仕方を徐々に上達させることができた。

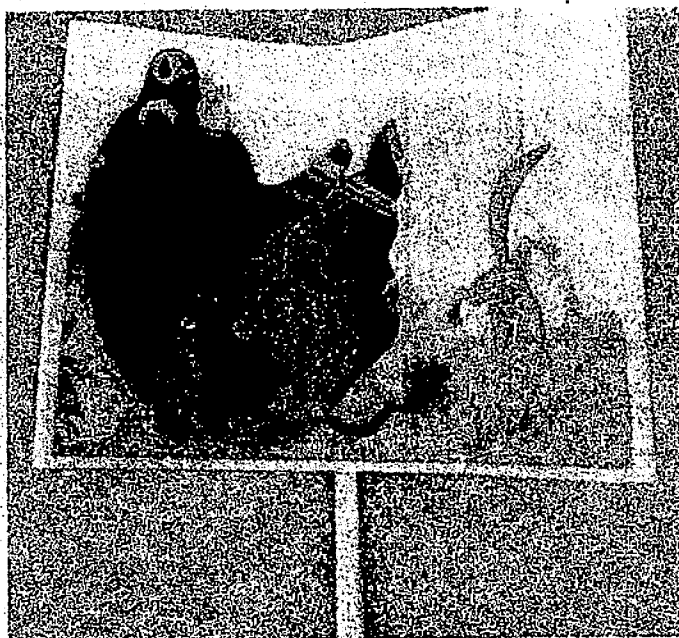
↓予選から決勝までのながれ



- ② ペープサート・さし絵・音読の3つにしぼって、効果的に発表することによって、聞き手が相違点や共通点に気づきやすい発表をすることができた。



児童が描いたきつねの
イティの挿絵
イティが逃げる場面



「ともだちひきとりや」の自作の
ペープサート

- ③ メモで一度整理させることによって自分が伝えたい内容を吟味することができ、相手に伝わりやすい構成を考えることができた。

↓メモ①

あらすじ	登場人物	作中人物	心に残った(印象深い)場面やシーン	登場人物について	考えの理由	自分メモ

児童の実際のメモ

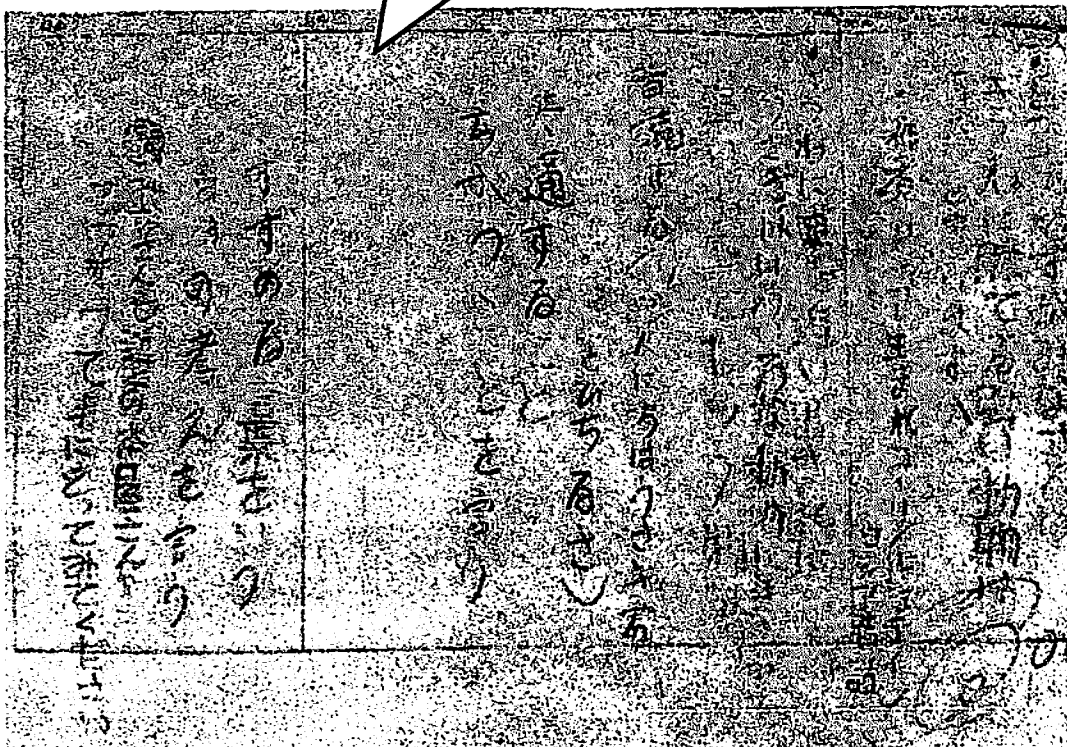
思い浮かぶところからメモをするようにした。

あらすじ	登場人物	作中人物	心に残った(印象深い)場面やシーン	登場人物について	考えの理由	自分メモ
場面を音読	まうおを	あつた	ロミンア昔話	あつたの	あつたの	あつたの

↓メモ②

終わり	中	始め

メモ①をもとに始め・中・終わりの順序でメモ②をつくっていった。



(練習風景 お互いに見合う場面)



話す構成を書き終えた人から個人で練習し、その後、友だちと見合う様子。



ストップウォッチで時間をはかり読む練習をしている様子。

(決勝戦場面)



(決勝戦ディスカッションの場面)



(聞いたあとにメモをする場面)



決勝戦

5年生を招いてディスカッションする様子

VI 成果と課題

〈成果〉

- 児童にとって身近な「お楽しみ会」について話し合うことをゴールに設定したため、全員が意欲的に話し合い活動に参加することができた。
- 話し合い BOX から自分たちの興味のある内容を話し合ったため、思いや考えを自ら積極的に伝えることができた。
- 身近にある題材をもとに学習の目的を設定したり、学習形態を工夫したりすることによって意欲を継続させることができ、児童は最後まで進んで学習に取り組むことができた。
- ビブリオバトルという方法を取り入れたことによって、普段話すことを苦手としている児童も、意欲的に楽しく取り組むことができた。どうすれば自分の思いや考えが相手に伝わるのか、メモを活用し、言葉を吟味しながら一生懸命に考える姿が見られた。
- 小グループから徐々にグループを大きくしていくことで、よい緊張感が生まれ、話し方、聞き方がていねいになり自信をもって表現できるようになっていった。
- 授業を終えたあとに、別な本でまたビブリオバトルを行いたいという児童の声が半数以上あり、読書意欲や次の学習への意欲を高めることができた。
- 話し合い活動やビブリオバトルの活動を通して、子ども達は思いや考えを伝えることが得意になった。児童たちのワークシートや授業の振り返りには、「前よりうまくできた。」ということ意見が多くあった。また、「次は、もっとこうすればいいのでは。」という自分自身の課題を見つけられる児童もおり、次の学習への意欲や自信につなげることができた。
- 相手や目的を意識して取り組む活動の中で、主体的に思いや考えを伝えようとする児童が増えた。

〈課題〉

- 進行がスムーズにできない児童には、スムーズに進めることができる児童をアドバイザーとしてそばに置き、フォローをしてもらうことも考える必要があった。
- 話し方はうまくなったが、場に応じた声の出し方は不十分だといえる。
- 授業計画の7時間では、発表原稿準備やペーパーサートの準備が間に合わない児童がいた。休み時間や家庭学習での取り組みが必要となった。
- 発表の場面で友だちの変容に漠然と気付けてはいるが、そのよさをどのように表現し、記録すればいいのかわからない児童への手立てが必要だった。
- ディスカッションの経験が少ないために自分の意見を控えてしまう児童が見られた。また、一部の児童だけでの話し合いになりがちなグループもあった。そのため、どの授業においても普段から話し合いの場を多く設ける指導の工夫をしていかなければならないと感じた。

●話す力・聞く力をつけていくそのためには、読む力、書く力、全て必要になってくる。短時間で身につけるのは難しい。そのため、今回のような取り組みや日常からの生活を活用した小さな取り組みを大切に重ね、力をつけていくことが大切だと感じた。